



2013/02/09

TWS shibuya TWS hongo

TWS クリエーター・イン・レジデンス・オープン・スタジオ

トーキョー・ストーリー 2013

TWS CIR OPEN STUDIO "TOKYO STORY 2013"

- | | | | | |
|-----|-----------|----------|-----|----------------|
| 第一章 | 2013/3/9 | 土 - 4/29 | 月・祝 | トーキョーワンダーサイト本郷 |
| 第二章 | 2013/5/2 | 木 - 6/9 | 日 | トーキョーワンダーサイト渋谷 |
| 第三章 | 2013/6/15 | 土 - 8/4 | 日 | トーキョーワンダーサイト渋谷 |
| 第四章 | 2013/8/10 | 土 - 9/29 | 日 | トーキョーワンダーサイト渋谷 |

参加クリエイター

第一章 「今、此处」

オル太 | OLTA

二藤建人 | Kento Nito

潘逸舟 | Ishu Han

第二章 (タイトル未定)

足利広 | Hiroshi Ashikaga

岩井優 | Masaru Iwai

遠藤一郎 | Ichiro Endo

栗林隆 | Takashi Kuribayashi

第三章 (タイトル未定)

池田剛介 | Kosuke Ikeda

奥村雄樹 | Yuki Okumura

モハメド・アブデルカリム | Mohamed Abdelkarim

ヌール・アブララフェ | Noor Abu Arafah

スッティラット・スパパリンヤ | Sutthirat Supaparinya



二藤建人 《universal mountain》 2012、ビデオ

**トーキョー・ストーリー 2013 第一章「今、此処」****企画概要**

2012年度トーキョーワンダーサイト (TWS) のクリエイター・イン・レジデンス・プログラム (CiR) に参加したクリエイターたちの成果発表展第一弾となる「今、此処」展では、国内クリエイター制作交流プログラムに参加した3組による展示を行います。彼らは、1年間TWS 青山：クリエイター・イン・レジデンスに滞在し、世界各国から集うクリエイターたちの中核的役割を果たすと共に、多くの交流を通して、刺激を受けながら制作活動を行いました。3組の制作活動の根底に共通する「同時代性」、「生(なま)」を主題にした成果発表にどうぞご期待ください。

また、本展を皮切りに、2012年度派遣および招聘プログラムにて滞在制作を行った国内外のクリエイターたちの成果をリレー形式で展開していきます。クリエイターたちと継続的な対話を行ってきたTWSだからこそ実現可能な新しい場を目指し、東京からクリエイティブな物語を送ります。

「今、此処」の概念

通常に異常を見、平凡な事物に神秘的なものを感じし、創造の意味を一気に領得する一点を把握し^{*1}、永遠の今、無限の刹那に、自分らが一心に作りあげたと考える、この世界を一瞬時にたたきつぶし^{*2}て、一微塵のなかに三千大千世界を入れる^{*3}——今、此処。

「今」には、過去と未来が編み込まれている。そして直覚は真理に到達する直接的な道である。

「二つのものに媒介者を入れずに、何も持たないで、その身そのまま相手の中に飛び込む。・・・(略)無意識に、無分別に、莫妄想に動くと、日本的靈性が認識される」^{*4}と大拙が説く世界へ、3組は、アートを介して疾走する。

死生の海を越えて、宇宙的無意識を探る。

^{*1}鈴木大拙 1940年「禅と日本文化」岩波書店 ^{*2,3,4}鈴木大拙 2000年「無心ということ」大東出版社

トーキョーワンダーサイト事業課長 家村佳代子

開催概要

■会期	2013年3月9日(土)～4月29日(月・祝)
■会場	トーキョーワンダーサイト本郷
■開館時間	11:00～19:00(最終入場は30分前まで) ※閉館時間はやむを得ず変更される場合がございます。予めご了承ください。
■休館日	月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
■入場料	無料
■主催	公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト
■アーティスト・トーク	日時 2013年3月16日(土) 15:00～ 会場 トーキョーワンダーサイト本郷 出演 Jang-Chi(オル太)、二藤建人、潘逸舟、木埜下大祐



トーキョーワンダーサイトのクリエイター・イン・レジデンス・プログラム

トーキョーワンダーサイト (TWS) のレジデンス・プログラムは、2006年のスタートから、本質的なレジデンスの在り方と、新たなレジデンスのかたちの両方を目指して活動を行ってきました。若手から中堅、さらには世界を舞台に活躍する一流のクリエイターたちが、東京の中でも文化の中心的な発信基地である青山に滞在して、創作活動を行っています。それぞれのプログラムは相互にかかわり合いながら、新たな対話やコラボレーションを生み出し、新しい実験的な創造の場となっています。

大きく分類すると10のプログラムがあり、これらは、世界各地のアートセンターや文化機関、信頼できるディレクターやクリエイターたちとパートナーシップを組みながら展開されており、東京に関するリサーチから成果発表まで、いろいろなかたちで成果が生まれています。クリエイティブの現場は、クリエイターの個人的な挑戦であると同時に、人と人との出会いによって一層の広がりを生み出します。TWSでは、ひとつの作品をつくり出すことだけでなく、レジデンスでのさまざまな試みのプロセスにおける出会いを大切にしています。

国内クリエイター制作交流プログラム

国内のクリエイターを対象とした長期滞在の支援プログラムです。毎年4～5人の日本人クリエイターが滞在制作し、さまざまなジャンルや国籍のクリエイターとの出会いを通して、創造的な交流やコラボレーションを展開していきます。また、国際的なキュレーターやディレクターに、自身のポートフォリオや作品を見てもらう「メンタリング」や「スタジオ・ビジット」、協働スタジオプログラムへの参加など、海外レジデンスへのステップアップに繋がるプログラムとなっています。定期的に開催されるOPEN STUDIO (クリエイターの制作現場を一般公開するイベント) に参加し、レジデンス終了時にはレジデンス成果発表展覧会にて最終発表を行います。

会場案内

トーキョーワンダーサイト本郷

〒113-0033 東京都文京区本郷2-4-16

TEL: 03-5689-5331

FAX: 03-5689-7501

■交通案内:

御茶ノ水駅 (JR 総武線、東京メトロ丸ノ内線)

水道橋駅 (JR 総武線、都営地下鉄三田線)

本郷三丁目駅 (東京メトロ丸ノ内線、都営地下鉄大江戸線) 各駅より徒歩7分

※駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。



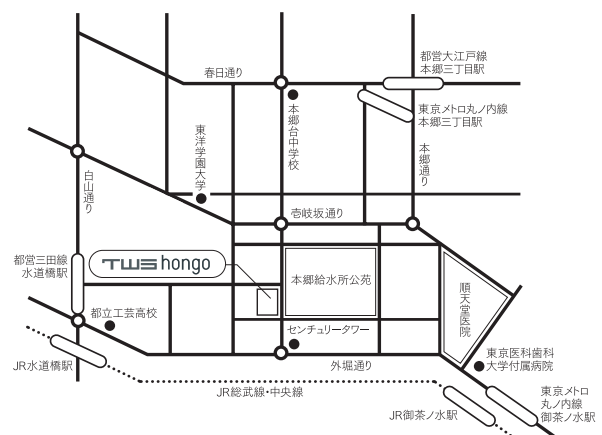
@Tokyo Wonder Site (日本語) @TWS_EN (ENGLISH)



Tokyo Wonder Site (日本語) Tokyo Wonder Site EN (ENGLISH)



Tokyo Wonder Site





第一章 参加クリエイター

〈ドダウンゲン〉2012、OPEN STUDIOでのパフォーマンス
Photo:Tomoaki Makino

オル太 (日本) | OLTA (Japan)

1983 ~ 1988 年生まれの 7 人からなる表現集団。

日本古来の伝統的な風習、原風景から現代のサブカルチャーまで、風土に染み付いた感性と記憶よりインスピレーションを得て作品を制作する。

メンバーは、井上徹、梅田豪介、川村和秀、斉藤隆文、長谷川義朗、メグ忍者、Jang-Chi。

〈クリエイター コメント〉

今、此処はとても怖い場所だった。

今、此処にいて安住する事に別れを告げ、世界のいつ、どこにでも往ける軽やかさを繼ぎたい。

今、此処は僕たちが存在する物質世界にある。

今、此処に縛られない。

今、此処は此れ。

今、此処をさらう。



〈universal mountain〉2012、ビデオ

二藤 建人 (日本) | Kento Nito (Japan)

1986 年埼玉県生まれ。2012 年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。作品との同化欲求をテーマに、自らが媒体となったパフォーマンスの彫刻を行う。自身の存在への問いかけを通して、作品が立ち現れる瞬間を目指す。

〈クリエイター コメント〉

私は自分自身の制作行為を、鑑賞する人に向けて映像など何らかの形で可視化することが多い。そのため作品中にはよく自分の身体が登場することになる。

ところで最近、私が作品の中で裸になることが増えてきていると指摘をうけた。確かに思い返してみると、裸で母を抱きしめたり、木にぶら下がったり、山をくだったりしている。今ここにいる自分は、何者なのか。それを確かめることと関係があるのではないかと思う。

時間にしても空間にしても、それがなにかを識るためには相応の距離が必要だ。しかし一人の人間がとれる距離には限界があるし、目の利かない状況というものも往々にして発生する。そもそも未来のことは想像しか出来ないし、過去のことはよく覚えていないかもしれない。そんな盲目的な状況下では、反対に距離をつめて、触れることでしかそれを識る手段はない。私は近頃、極端にもわかりが悪くなっているのかもしれない。だから裸になるのかもしれないのだ。居酒屋で裸になる人も、露出狂と呼ばれる人もきっと私と似たようなものではないだろうか。これは決して馬鹿にしたものではない。もしも一切が不測な暗闇に置かれたとしても、それを切り拓くのは自らの身体でしかないのだ。今展ではそんな現在という状況に投げ出された身体の辿る宿命を、実践と想像を以て示していく。



〈呼吸 breathing〉2012、ビデオ

潘逸舟 (日本) | Ishu Han (Japan)

1987 年中国上海生まれ。2012 年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。名前、家族、家という個々の存在意義の上に包括的に存在する社会や世界に疑問を投げかけることで、改めて自己の思考そのものを考える制作活動を行う。

〈クリエイター コメント〉

ぼくはこの1年間のレジデンスで、風景のなかで自分自身がパフォーマンスを行い、その様子を記録した映像作品を制作してきました。それは「風景のなかにある身体」を「共同体の物語のなかで投げ込まれた身体」として捉える試みです。私たち個人は、風景という存在を所有したり、掴んだりすることができず、そのなかに「いる」という状況でしか存在することができません。大きな風景のなかで身体を映し出すことで、風景の存在そのものを、ひとつの「ユートピア」として捉えることができないだろうかと考えています。それは同時に、個人が共同体のなかに参加するための「資格」とは何か、ということへの問いかけでもあるのです。今回の展覧会では、アイデンティティを探索する身体とは何か、またその問いかけのなかから立ち現れてくる風景とは何か、ということについての作品を制作しようと思っています。

コラボレーター | Collaborators

今年度、TWS 青山: クリエーター・イン・レジデンスに滞在したクリエイターと共同制作した作品も展示されます。

アンドレアス・グレイナー (ドイツ) | Andreas Greiner (Germany)、アリシア・キング (オーストラリア) | Alicia King (Australia)

ヴェー・ホン・ニン (ベトナム) | Vu Hong Ninh (Vietnam)、カシミロ・ヴァレンティム・ペレイラ・ザカルノ (東ティモール) | Casimiro Valentim Pereira Zecaruno (East Timor)